

## 豊かな実りのために

島田直子

(北九州市保健福祉局保健医療部健康推進課)

ある日のこと、我が家へ台湾に住む父の旧友からの手紙が届いた。曰く、「最近、俳句の勉強を始めた。意味のわからない日本語があるので教えてほしい。」という内容で、「蓼の花、ねこじゃらし、ぺんぺん草、冴え冴えと雪の朝、候雀」等の言葉が並んでいた。回答を求められた父は、草花はともかく、「冴え冴え」という感覚について、日本とは異なる気候や風土で暮らす台湾の友へどう説明したらよいかと頭を抱えていた。さらに「候雀」にいたっては、父も手を焼き、一緒にいた私にお鉢が回ってきたが、文学的素養に欠ける私には皆目見当がつかず、どんな珍しい雀かなと興味津々、探してみ、発見したのが夏目漱石作の一句。

「某（それがし）は 案山子にて候 雀殿」  
なるほど、父の友人はきっとこの句の読み方を間違えているのだろうと勝手に納得し、一件着落。

しかし、私自身はこの句に出会い、秋の田に、一人たたずむ案山子はどんな思いを雀に訴えているのかと考え、我が身をなぞらえてしまった。

大学を卒業して以来、北九州市の歯科保健担当者として、微力ながら業務遂行に努めているが、その中でいつも自分の無力さを思い知らされているのが、様々な場面での「連携」である。

「連携」とは「同じ目的をもつ者が互いに連絡をとり、協力し合って物事を行うこと（広辞苑）」とあるが、まずは“同じ目的”を共有することの難しさ、ではそこから、と思えば何と道のりの遠いこと…。

ということで、私は平成18年度の介護保険法の

改正に伴い導入される介護予防サービスの目玉のメニューの一つである「口腔機能の向上支援」という新たな世界に期待を寄せている。

現在、歯科保健担当としてその事業化を目指し、企画・立案、人材確保等、期限付きでの業務が山積し、抜き差しならない状況に追込まれつつあるが、口腔保健が高齢者の介護予防に貢献できるということと併せ、この事業を通して歯科専門職と他職種との「連携」が深まるものと信じている。

例えば「口腔機能の向上支援」で、地域の歯科医師の先生方に「連携」が求められているのは、

- ・生活機能が低下してきた高齢者の早期把握
- ・介護予防事業の要の機関として、新たに創設された地域包括支援センターへの運営支援
- ・介護予防ケアマネジメントにおける介護予防ケアプランの作成支援、サービス担当者会議への参加、サービス実施前の歯科治療
- ・参加者の個別サービス計画の「専門的サービス」「セルフケアプログラム」の立案時の助言
- ・口腔機能の向上プログラム実施時における課題等の助言・指導、サービス提供に従事する歯科衛生士、看護職員、言語聴覚士への支援
- ・インシデント、事故等のトラブル発生時の対応

等の場や機会である。

そこでは、求められている役割も、相手先も、関わりの頻度や濃淡も様々な色合いの「連携」にチャレンジする機会をいただくことになる。

私はこのチャンスを大いに活用し、介護予防と

LETTER TO THE EDITOR

いうフィールドで、自ら「某は歯科医にて候雀殿」と愚痴るような寂しい思いをしなくてすむように、しっかりと前を向いて取り組んでいきたい。

---

**【著者連絡先】**

〒803-8501 北九州市小倉北区域内1番1号  
北九州市保健福祉局健康推進課  
島田直子  
Tel : 093-582-2018 Fax : 093-582-4997